

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 阿久根由美子
日 時	平成24年5月25日(金曜日)		開 議 午前 10 時 00 分
			閉 議 午前 11 時 36 分
出席委員	小島 ○立花 山本 田中 西村 堤 <欠席:吉田>		
執行機関出席者	山内政策推進室長、竹村政策推進課長、柏尾政策推進課参事、大石政策推進課主幹		
事務局	阿久根		
傍聴者	市民1名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

【小島委員長 開議】

【事務局 日程説明】

10:03

2 議題

(1) 平成 23 年度事業実績及び平成 24 年度事業計画について

【政策推進室 入室】

【政策推進室 説明】

10:35

【質 疑】

<西村委員>

別院線では1人の乗客に1,573円の経費がかかっている。経費の積算資料を提出願う。

<政策推進室長>

後日提出する。

<西村委員>

減価償却費、運賃、ガソリン代など積算根拠の分かる資料を提出願う。

<山本委員>

P 2、京都タクシーへの福祉車両補助について説明を。

<政策推進室参事>

平成 23 年度から京都タクシーの要望により補助を受けられている。車イスが乗れる改造費用を対象に1台60万円を補助している。平成 23 年度の乗車は1日3件程度で、利用料金はタクシー料金と同じである。

<西村委員>

平成 23 年度生活交通サバイバル戦略とは何か、今後の方向性は。

< 政策推進室参事 >

市がアンケート調査をする場合、市の付属機関ではなく、市と切り離れた組織でないと補助対象にならないなど。新規取組みの場合には受け皿を整理する必要がある。

< 山本委員 >

福祉車両補助について、市が京都タクシーに補助をしているのか。

< 政策推進室参事 >

国が直接補助をしている。申請は市を經由し運輸支局に提出している。

< 堤委員 >

別院線は他の路線と比較し多くの経費がかかっている。地元要望で運行していると思うが、もっと利用してもらわないといけない、どう P R するのか。

ふるさとバスは府の補助が受けられなくなっても運行するのか。料金改定も視野に入れているのか。

川東線 F 1 1 系統の 8 時 35 分と 9 時 55 分との間に増便の要望があるが、考えは。

< 政策推進室長 >

平成 17 年の京都交通惨の破たんを受け、路線を保障するため京都府から半額補助されてきた。行政サービスの面で市単費になっても廃止はできないという意見もあるが、乗客 1 人に 1,500 円もかかるならどうかという意見もある。一定時間をかけ、他の路線も含めサービスと負担のバランスを十分検討したい。

他にも増便要望は多くあり応えていきたいが、そうすると負担は増える。市の負担の限界や市民の合意を考えないといけない。今年度から政策推進のなかで検討する。

< 堤委員 >

財政は厳しいがふるさとバスを廃止することはできない、利用の増加に努めていかなければならない。

< 政策推進室長 >

廃止の方向は考えていない。収支のことも軽視してはいない。

< 立花副委員長 >

国の動向はどうなっているのか。地域の実情にあった公共交通が必要である。政策推進室が担当することになって、バス交通に対する考えは。

< 政策推進室長 >

推測であるが、国や府の補助は続かないかもしれない。亀岡市のように辺地でもなく都市でもない市にはメスが入ってくるかもしれない。しかし、甘んじて受けるつもりではなく、要望をしっかりとっていく、今後方針を固めていきたい。

< 立花副委員長 >

京丹後市など成功例がある。市民に喜ばれる公共交通を議会も考えている。他事例を参考に、今後も議会とともに検討願う。

<西村委員>

先の積算については、京阪京都交通㈱の一般管理費分、利益が知りたいので質疑した。

<政策推進課長>

ふるさとバスの経常費用にあたる内訳を資料で提出する。京阪京都交通㈱に収益は上がらない契約をしている。

<西村委員>

市は収益をチェックしないといけない。

<堤委員>

コミュニティバスを新型車両に乗り換えている、大型バスから小型バスの変更、市が運行するスクールバスの活用など、経費の節減を考えるべき。

<政策推進室参事>

一般的にバスの耐用年数は6～7年かと思う。コミュニティバスは1台、ふるさとバスは5台運行している。スクールバスの利用は法令上できない。

<堤委員>

バス車両は6年以上使える。経費節減の検討はしておいてほしい。

<政策推進室参事>

もっと効率的にという意見だと思う。以前から議論もあったと認識している。

<小島委員長>

安全安心の面から通学路を走るバスには乗客が乗っていない場合がある、減便の検討も必要ではないか。通学時にバスが通るのは危険である。

<政策推進課長>

公共交通計画の策定、それに伴うアンケート調査のなかで検討していきたい。

<小島委員長>

京都府が通学路を整備するには時間がかかる。減便は経費削減につながり住民理解も得られ早急に対応できる、検討願う。

【政策推進室 退席】

11：14

(2) ワークショップ意見について

〔事務局 別紙説明〕

<小島委員長>

この内容で、正副委員長において政策推進室に提出したい。

< 立花副委員長 >

地域別に状況は違う、地域の実情に合った検討をするべきなので、その旨口頭で伝える。

< 堤委員 >

個別の意見も提出すればよい。

< 小島委員長 >

個別意見を付け資料の内容で提出する。 【全員 了】

(議会報告会意見について)

< 小島委員長 >

議会報告会の蒔田野町会場での意見で、ふるさとバスのバス停増設、増便の要望があった、委員会の対応を協議願う。

< 堤委員 >

報告会で意見を聞いた、地元も要望を聞かれているが、要望された場所でのバス停設置は危険だと話されている。

< 小島委員長 >

今後地域こん談会やアンケート調査などもあるので、今は参考とするのがよいのではないかと思う。 【全員 了】

3 その他 ○ 次回委員会について

< 小島委員長 >

次回は京都府が「出前語らい・専門職員派遣」でもされている「地域公共交通の活性化について」府の交通政策課から職員を派遣いただき、話を聴くことでどうか。

< 西村委員 >

よいことだと思う。執行部も同席されるとよい。

< 小島委員長 >

執行部とは今後アンケートの検討をともに進めるので、そうしたい。

日程は7月下旬で正副委員長に一任されたい。【全員 了】

散会 ~ 11 : 36